



校長挨拶 ～つながりの中で育つ～

春の訪れを感じる季節となり、令和7年度もまもなく締めくくりの時期を迎えます。今年度も、児童生徒の学校生活を温かく見守り、成長を支えてくださいました保護者の皆様、地域・関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本校では、学校教育目標「つながり・チャレンジする子どもたち・学校」のもと、すべての児童生徒が自分の可能性を信じ、多様な挑戦に取り組んできました。日々の学びや行事の中で見せてくれた成長の姿は、教職員にとって大きな喜びです。

さて、近年よく耳にする「インクルーシブな〇〇」という言葉ですが、インクルーシブな教育や学校とはどのようなもののでしょうか。インクルージョン研究者の野口晃菜氏は、教育新聞オピニオン「社会モデルを子どもと共に学ぶ『ふつうアップデート』」（令和8年1月15日）の中で次のように述べています。

「多様な子どもたちで構成される集団においては、その集団にとっての『最適解』は話し合うことでしか見いだせない。（…）子どもたちが意見を出し合い、自分たちにとってインクルーシブな教室づくりを模索していくことは、子どもたちにとっても、とても重要な経験なのではないだろうか。」

この言葉は、子どもたち自身が対話を通してより良い学びの場をつくらうとする姿勢の大切さをあらためて教えてくれます。同時に、この記事を読む中で、本校の児童生徒は「話し合い」という形だけでなく、それぞれの姿や行動、体験、表情など、言葉以外の方法でも“自分たちにとってのインクルーシブな学級・学校”について考え、確かめているのだということに気づかされます。

子どもたちは日々の活動の中で、「感じる」「気づく」「表現する」というプロセスを積み重ねながら、自分なりの方法で周りの仲間とつながり、学び合っています。これは、まさに記事で示されている“模索”の姿そのものだと言えるでしょう。

さらに、本校が大切にしてきた京都八幡高等学校との交流及び共同学習や地域とつながる教育活動は、子どもたちが他者と関わる中で“自分なりの表現方法で思いを伝えたい”という気持ちを育む、貴重な学びの場となっています。これらの経験は、多様性を尊重し合いながらインクルーシブな環境をともに築く力を確かに育てています。

3月は出会いと別れの季節です。期待と不安が入り混じる中、ちょっとした勇気を胸に、子どもたちが次の一步を踏み出してくれることを願っています。これまでのすべての経験が、必ず次のチャレンジの力となることでしょう。

今年度の御支援に深く感謝申し上げますとともに、来年度も変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げます。皆様が穏やかに新しい年度を迎えられますことを心よりお祈りいたします。

各学部 学習のまとめの様子

小学部

早いもので1年が終わろうとしています。1年を通し、様々なことを学習し、子どもたちは大きく成長しました。6年生は中学部で、下級生は次年度さらに力を伸ばしていけるよう引き続き支援していきます。

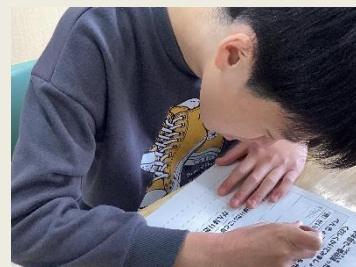
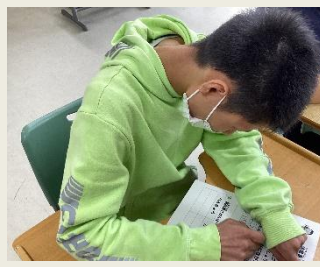


各クラス、まとめの学習をしています。1年間の振り返りをする中で、集団を意識できるようになったことや、学習したことを思い出し、自分の成長を感じたり、苦手を克服してできることが増えたりする姿を見せてくれています。

中学部

生活単元学習「思い出パラダイス！」

中学部3年生最後の生活単元学習では、今まで授業で取り組んできたダンスを踊ったり、中学部3年間の出来事を振り返り一番楽しかったことを一人一つ出し合ってみんなで楽しみました。さらに思い出作りに取り組んでいます。また、高等部に向かって一人一人決意表明も考えました。自信をもって新たなスタートをきってほしいです。



高等部

～京しごと技能検定～

2学期以降、京しごと技能検定「清掃」「接客」「パソコン」「介護」の4分野の検定に取り組んできました。初めて行く広い会場や、他校からも多くの生徒が集まる緊張感のなかで、一人ひとりが練習の成果を発揮することができました。



／清掃／

道具を正しく使って、すみずみまできれいにできるか評価されます



／接客／

身だしなみを整え、注文通りの配膳や片付けができるか評価されます



／パソコン／

速く、指示通りに入力できるか評価されます



／介護／

しわなくシーツを敷くことができるか評価されます



何かお気づきのことがありましたら、学校まで御連絡ください

TEL:075-982-7321 MAIL:yawata-s@kyoto-be.ne.jp

学校だよりのカラー版は学校ホームページに記載しております。
<http://www.kyoto-be.ne.jp/yawata-s/cms/>

